

コンタック総合研究所
市販薬の知識&イメージテスト調査



2012年2月

グラクソ・スミスクライン株式会社

【調査概要】

1日2回でずっと効く「コンタック®600 プラス」を製造販売するグラクソ・スミスクライン株式会社のコンタック総合研究所* (<http://contac.jp/soken/>)は、花粉シーズン到来を前に、ドラッグストアや薬局・薬店で販売されている鼻炎薬を含めた「市販薬の知識&イメージテスト調査」を、ビジネスパーソンを対象に実施しました。

※コンタック総合研究所:消費者のかぜや鼻炎の症状などの意識をウェブサイト上で調査する仮想の研究所

【調査方法】

インターネットでのアンケート調査

【調査対象】

全国のビジネスパーソン 男女合計 620名

【調査期間】

2012年01月20日(金)~2012年01月21日(土)

● 性別

性別	N	%
男性	310	50.0
女性	310	50.0
合計	620	100.0

● 年齢

年齢	N	%
20才~24才	35	5.6
25才~29才	134	21.6
30才~34才	194	31.3
35才~39才	257	41.5
合計	620	100.0

● 職業

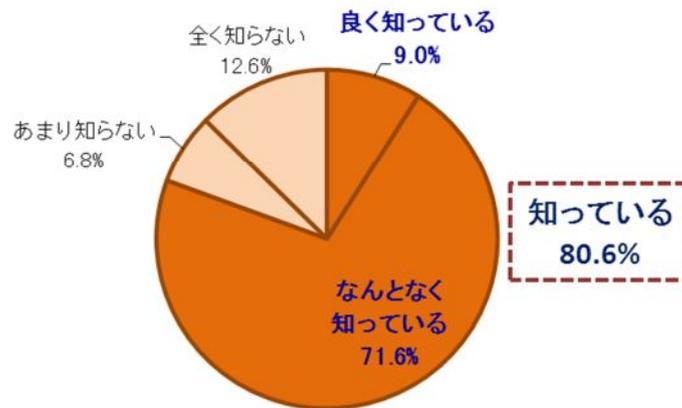
職業	N	%
公務員	49	7.9
経営者・役員	6	1.0
会社員(事務系)	241	38.9
会社員(技術系)	147	23.7
会社員(その他)	123	19.8
自営業	32	5.2
自由業	22	3.5
合計	620	100.0

市販薬の知識&イメージテスト

● 店頭でのリスク分類を知っている人は 80.6%と、比較的多い認知率に。

2009 年の薬事法改正から、店頭での一般用医薬品 (OTC 医薬品) は、副作用リスクの度合いに応じて、薬剤師からの説明を義務付けるリスク分類化がされていますが、今回の調査では、このリスク分類を「良く知っている」「なんとなく知っている」人が合わせて 80.6%と高い認知率になりました。しかし、「なんとなく知っている」と回答した人が大半の 71.6%を占めるため、店頭の販促表示やパッケージなどで見たことがある程度であると推測されます。

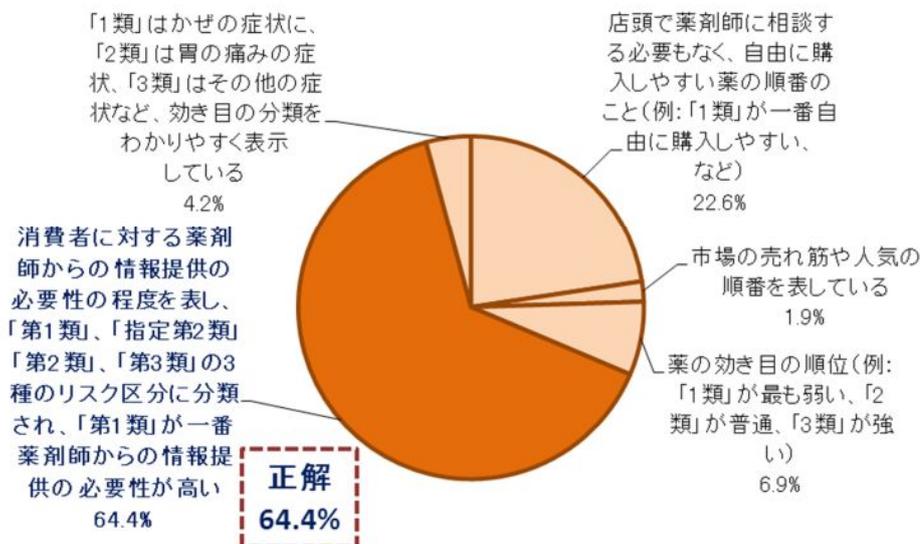
[Q1] 薬局・薬店、ドラッグストアで市販されている市販薬が、「第1類医薬品」「指定第2類医薬品」「第2類医薬品」「第3類医薬品」と分類されていることをご存知ですか？ (N=620)



● 正しいリスク分類イメージを持っていた人、64.4%と半数以上。

「第1類」「指定第2類」「第2類」「第3類」が、何の分類を指しているのか、わからない場合はイメージも含めて回答いただいたところ、半数以上が「薬剤師からの情報提供の必要性の程度」と正解していました。しかし、35.6%の人は、誤ったイメージを持っており、完全には分類への理解が浸透していないことが伺えます。

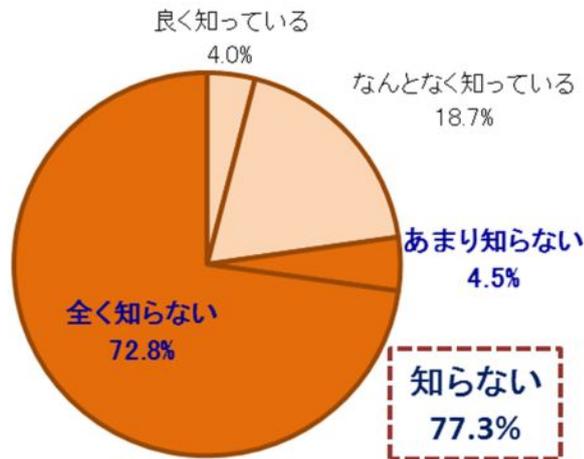
[Q2] 「第1類医薬品」「指定第2類医薬品」「第2類医薬品」「第3類医薬品」と分類されていますが、どのような分類を表していると思いますか？わからなくても、イメージで結構です。(N=620)



● **医療用成分配合の「スイッチ OTC」の存在を知らない人、77.3%にも。**

病院で処方されている医療用成分が配合された「スイッチ OTC」の認知度を調査したところ、ほとんどの方が、「全く知らない」「初めて聞いた」などと、存在すら知らないことがわかりました。良く知っている人は、わずか4%に留まり、いまだ十分に「スイッチ OTC」への認知度の低さが伺えました。

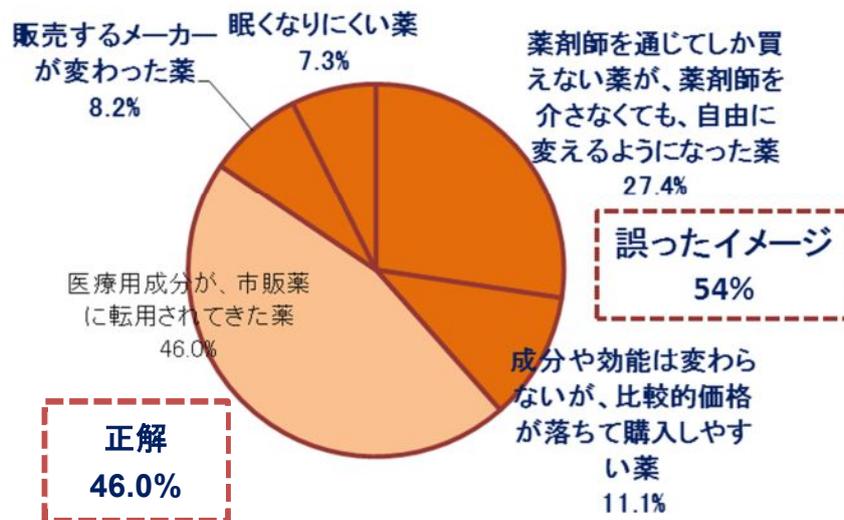
[Q3]「スイッチOTC薬」をご存知ですか？(N=620)



● **「スイッチ OTC」への誤ったイメージを持っている人は、54%と半数以上。**

「スイッチ OTC」を知らない人が大半でしたが、さらに『「スイッチ OTC 薬」とはどのようなものだと思いますか？』とイメージを含めて聞いたところ、半数以上が「薬剤師を介さなくても自由に変えるようになった薬」「成分や効能は変わらないが、比較的価格が落ちた購入しやすい薬」「販売するメーカーが変わった薬」「眠くなりやすい薬」など、誤ったイメージを持っていることがわかり、認知度と同様に、低い理解度となりました。

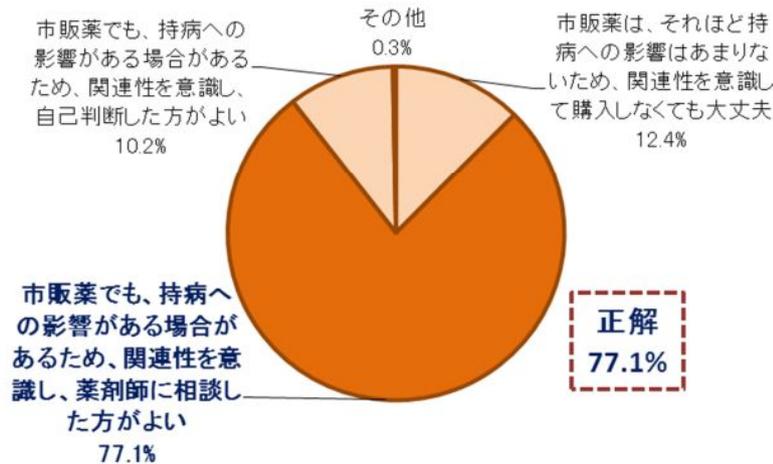
[Q4]「スイッチOTC薬」とはどのようなものだと思いますか？
わからなくても、イメージで結構です。(N=620)



● **市販薬と持病との関連性をきちんと意識している人、77.1%に。**

心臓病や高血圧、甲状腺機能障害や糖尿病などの持病がある方は、服用が禁止されている市販薬もあるため、薬選びの際には、持病との関連性を意識して購入することが大切です。同研究所が過去に行った調査によると、市販薬を購入する際、自己判断で薬を決めている人が約7割でした。自己判断のみで購入してしまうと、このような持病との関連性を見落とす場合もありますので、薬剤師に相談することをおすすめします。

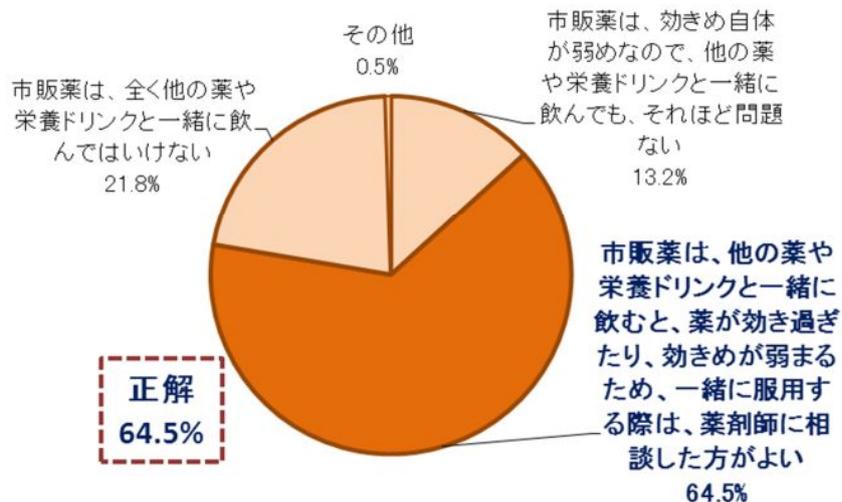
[Q5]市販薬と持病との関連性についてお答え下さい。
わからなくても、イメージで結構です。(N=620)



● **他の薬や栄養ドリンクとの併服は、薬の効きめに影響があるため、要注意。**

市販薬を服用時に、他の薬や栄養ドリンクとの飲み合わせについて聞いたところ、64.5%の人が「薬が効き過ぎたり、効きめが弱まるため、一緒に服用する際には、薬剤師に相談した方がよい」と正解したものの、35.5%の人は、併服をそれほど問題視していない、またはまったく一緒に服用してはいけない、と誤った認識があり、自己判断に偏っている見解が見受けられました。

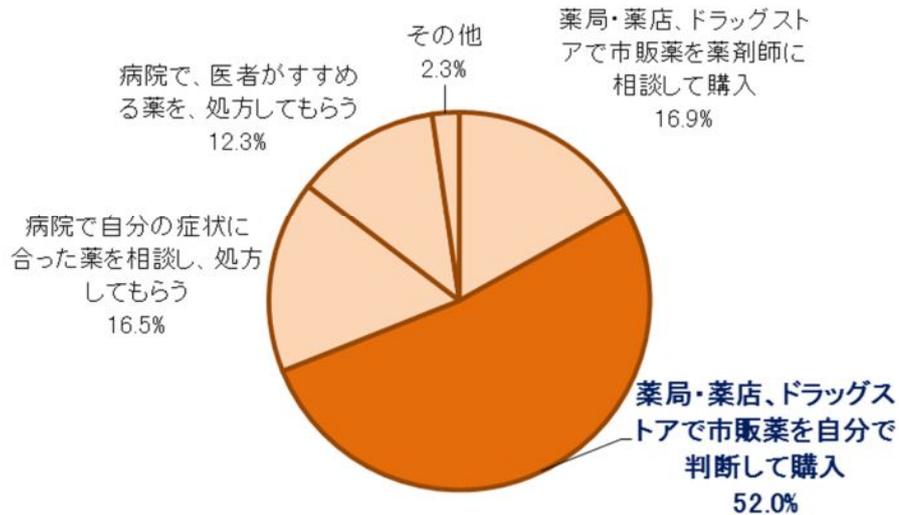
[Q6]市販薬を服用時に、他の薬や栄養ドリンクとの飲み合わせについて正しいと思うものをお答えください。(N=620)



● **花粉飛散時期に、自己判断で市販薬を購入する人が半数以上という結果に。**

市販薬を利用して、自己治療をする「セルフメディケーション」派が、ビジネスパーソンの中には半数以上見受けられる一方、店頭では薬剤師に相談することなく、自己判断で購入している人が、52%もいます。前述の持病との関連性や他の薬との併服など、自己判断では把握しにくい情報は、薬剤師に気軽に相談することが大切でしょう。

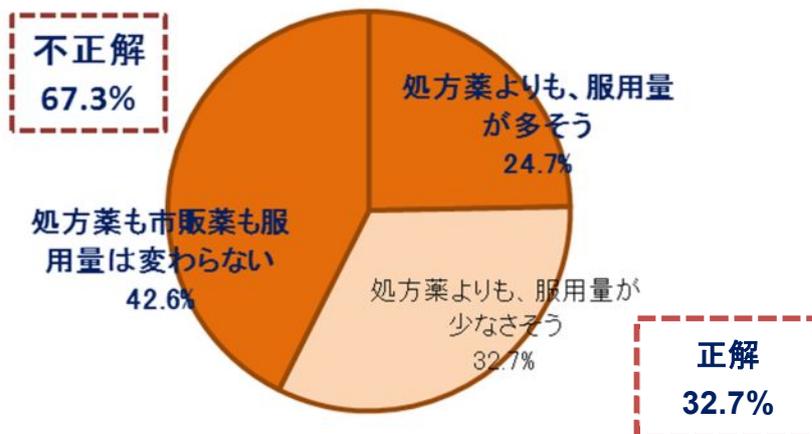
[Q7]あなたは、花粉シーズンに利用する市販薬をどのように購入していますか？
(N=620)



● **「処方薬よりも、市販薬の方がたくさん薬を飲むのでは？」ほか、誤った服用量イメージが 67.3%。**

市販薬は「処方薬よりも、服用量が多そう」または「処方薬も市販薬も服用量は変わらない」など、誤ったイメージが 67.3%でした。市販薬は、1つの内服薬に複数の成分が配合されているため、処方薬よりも服用する数が少なく、便利です。忙しいビジネスパーソンは、服用量が少ない市販薬を上手く活用するのも得策かもしれません。

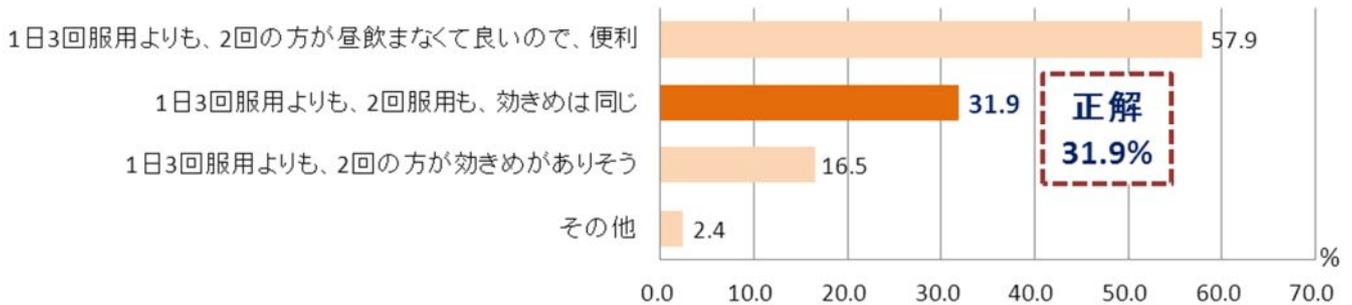
[Q8]花粉症の市販薬の服用量のイメージについて教えてください。(N=620)



● **1日2回服用の方が、効きめが強いのでは？副作用の影響も強い？の違い**

花粉症の市販薬の服用回数のイメージで、下記の選択肢のうち「1日3回服用よりも、2回服用も、効きめは同じ」が正解で、31.9%でしたが、誤った回答の中には「1日3回服用よりも2回の方が薬が強いのでは。」「場合によっては効き過ぎそう。」「1日2回だと効果が過剰になりそう。」などの誤解が見受けられました。服用回数に関係なく効果は同じなため、自分のライフスタイルに合った服用回数を選ぶことが大切です。

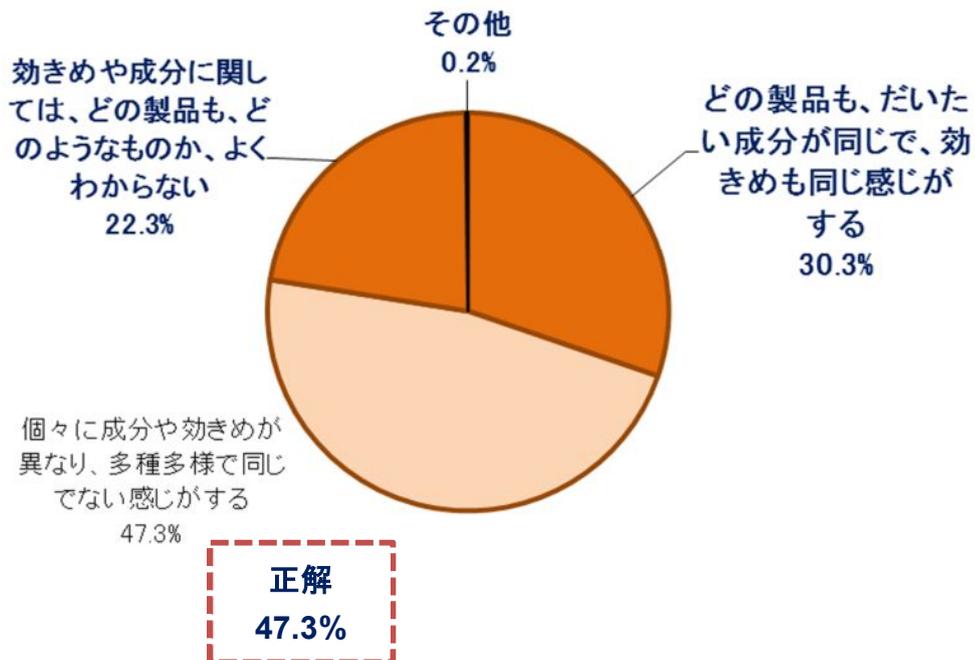
[Q9]花粉症の市販薬の服用回数のイメージについてお教えてください。(いくつでも)(N=620)



● **成分や効きめに関しては、パッケージの効能訴求や、裏面の成分表示を参考に**

「個々に成分や効きめが異なり、多種多様で同じでない感じがする」が正解です。「どの製品も、だいたい成分が同じで、効きめも同じ感じがする」と回答した人が30.3%いましたが、リスク分類ごとに成分や持病との関連性もあるため、購入時は注意をしましょう。「効きめや成分に関しては、どの製品も、どのようなものか、よくわからない」は22.3%いましたが、パッケージに効能訴求や、裏面には成分表示がされているので、参考にしてみてください。

[Q10]花粉症の市販薬の成分や効きめについてのイメージをお教えてください。(N=620)

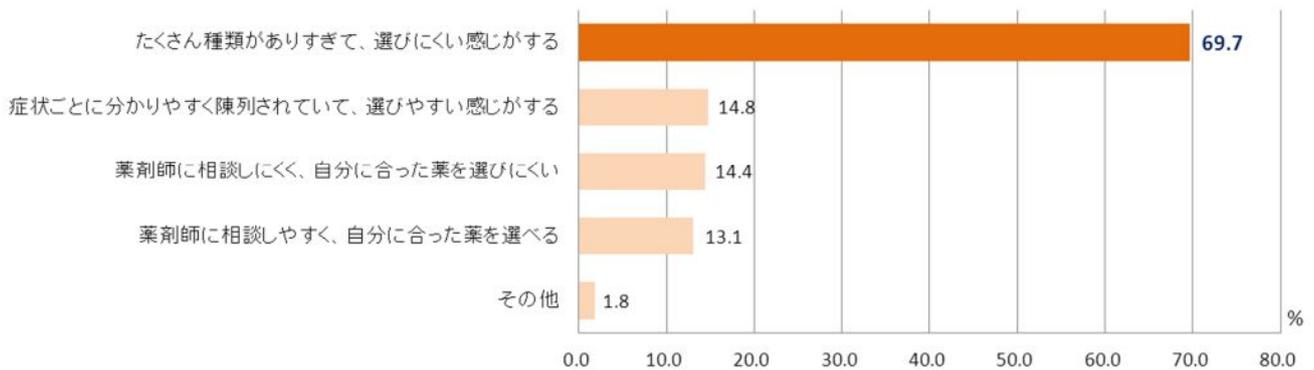


花粉症の市販薬を選ぶ際の魅力、興味度ほか

- **店頭での薬選びは、たくさん種類がありすぎて、選びにくいイメージが 69.7%。**

花粉症の市販薬は、店頭でさまざまなメーカーから多数、販売されています。「たくさん種類がありすぎて、選びにくい」イメージが 69.7%という高い回答率でしたが、これは、自己判断で自分に合った薬を選ぶ人にとっては、正しいイメージとも言えるでしょう。「薬剤師に相談しやすく、自分に合った薬を選べる」人は、わずか 13.1%に留まりました。店舗や薬剤師自身も、相談されやすい売り場づくりを意識することが大切かもしれません。

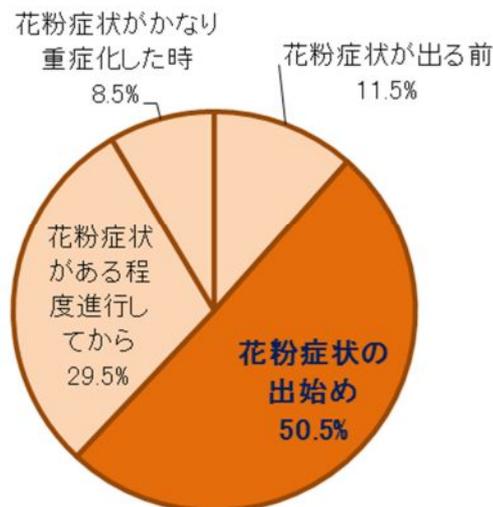
[Q11]花粉症の市販薬の購入イメージをお教えてください。(いくつでも)(N=620)



- **花粉症の市販薬を服用するタイミングは「花粉症状の出始め」が 50.5%とトップに。**

花粉症の市販薬を利用し始めるタイミングについて聞いたところ、「花粉症状の出始め」が 50.5%と最も高い回答率となりました。また「花粉症状が出る前」が 11.5%で、花粉症がある程度進行、または重症化する前からの“早めの対処派”が全体で 62%と半数以上であることがわかりました。

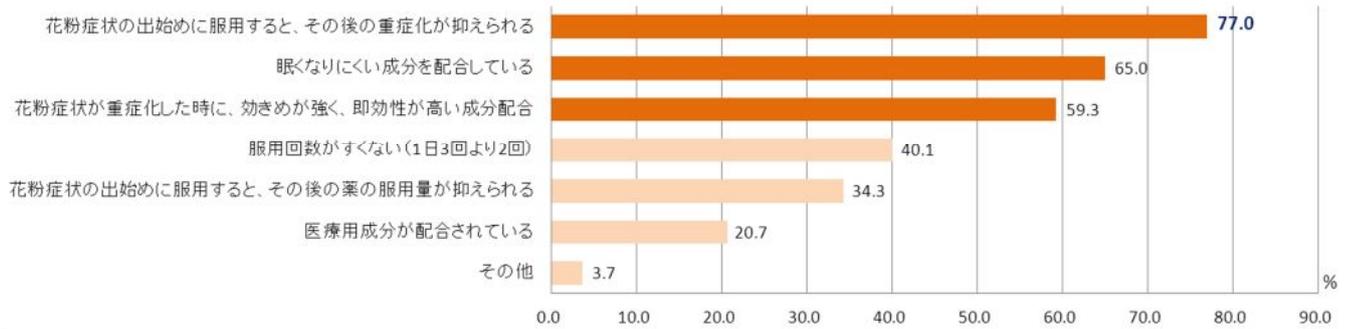
[Q12]花粉症の市販薬を服用するタイミングに最も近いものをお答えください。(N=434)



- **花粉症の市販薬で魅力的だと思うものは「症状の出始めに服用すると、その後の重症化が抑えられる」がトップに。**

花粉症の市販薬も多種多様販売されており、成分によっては、期待できる効果がそれぞれ異なりますが、市販薬の成分特徴の魅力度を聞いたところ、「花粉症状の出始めに服用すると、その後の重症化が抑えられる。」がトップで **77%**となり、重症化が抑えられる特徴は、2位の「眠くなりにくい」よりも、メリットとして評価しているビジネスパーソンが多いようです。

[Q13]下記の市販薬の特徴で、魅力的だと思う順にお選びください



- **「スイッチ OTC」の存在を知った上で、市販薬を利用することに興味がある処方薬派、67.7%も。**

今まで病院の処方薬を利用していた人限定で、医療用成分が配合された「スイッチ OTC」を理解した上で「市販薬を今年の花粉対策として使用したいと思いますか?」と聞いたところ、購入したい意欲も含め、利用することに興味がある人は約 67.7%にのぼるなど、店頭での市販薬の種類や分類への理解を深めれば、今後も市販薬を利用してセルフメディケーションをする潜在意識が高いことが明らかとなりました。

[Q14]今まで病院で処方されていた鼻炎薬と同成分が配合されたスイッチOTC医薬品「第1類医薬品」を含め、市販薬を今年の花粉対策として使用したいと思いますか? (N=186)

